



7月15日～8月15日は「見直し摘果強化運動期間」です！！

管内のふじの肥大状況は7月12日現在の平均で5.1cm、平年比104%とほぼ平年並みとなっております。
摘果作業が遅れている園地では仕上げ摘果を急ぐようにしましょう。また、仕上げ摘果を終えた園地では、もう一度園地を見回り『見直し摘果』を行いましょう。

◆りんご肥大状況◆

7月12日現在 (cm)

		薬師堂	千年第一	小沢
ふじ	本年	5.4	4.9	5.0
	平年	4.7	5.2	5.0

◆見直し摘果の実施◆

7月上旬になると新梢が停止し、今年の葉の枚数が決定します。それにともない、果実肥大、来年の花芽作り、樹体の成長・維持など養分消費量が急激に増えます。そのため、果実に対して葉の枚数が少ない所では果実肥大にバラツキが出てきます。

肥大の劣っているものや障害果は積極的に落とし、葉果率の適正を目指しましょう。

※葉果率：1果生産するのに必要な葉の枚数。りんごは50枚といわれています。

昨年、王林にピターピットの発生がみられました。5月中旬から9月までの積算気温が高いほど発生が多くなりますので、対策の一つである適正着果に近づけましょう。

◆病害虫の動き◆

褐斑病	8月～9月が感染の最盛期。冷涼で多湿の条件下で発生しやすいです。
炭そ病	6月下旬～9月にかけて降雨が多いと感染し、多発する。発生しやすい品種は王林、ジョナゴールド、つがる、紅玉などがあります。
輪紋病	6月中旬～9月上旬まで感染し、特に降雨の多い6月中旬～7月中旬が感染しやすく、多発の原因となる。発生しやすい品種は、王林、ふじ、つがるなどがあります。

◆病害虫の動き◆

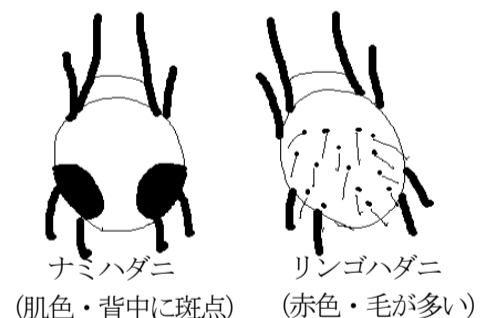
殺ダニ剤はハダニ類の発生種を確認し、その状況に応じて使用しましょう。リンゴハダニは目通りの高さの新梢中位葉について、ナミハダニは樹冠内部の主幹や主枝から直接出ている新梢中位葉について観察してください。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上です。なお、殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年1回の使用としてください。

【ダニ剤適用表】

薬剤名	倍数	収穫前日数	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ	サビダニ
マイトコーネF	1000倍	前日	1回	—	○	—
コロマイト乳剤	1000倍	前日	1回	○	○	○
オマイト水和剤	750倍	3日	1回	○	○	—

※マイトコーネはナミハダニ以外のダニには効果がありません。

※オマイト水和剤は7月末まで使用を避ける。高温・干ばつ・日照不足で薬害がでる恐れがあります。



ナミハダニ
(肌色・背中に斑点)

リンゴハダニ
(赤色・毛が多い)

◆薬剤散布◆

回数及び散布量	散布時期	対象病害虫	基準薬剤					
			無ボルドー方式		1000ℓ 当たり薬量	ボルドー方式		
500L / 10a	7月半ば	斑点落葉病・炭そ病 すすすす斑病、 褐斑病、ハダニ類 ハマキムシ類、 モモシクイガ	1 オキシンドー	1,200倍	835g 200ml	1 I Cボルドー	50倍 5,000倍	20kg 200ml
			2 サムコル	5,000倍		2 サムコル		
500L / 10a	7月末	斑点落葉病・炭そ病 褐斑病、黒星病、 ハダニ類 ギンモンハモグリガ、 モモシクイガ	1 オーソサイド	800倍	1.25kg 500g 250g 1L	1 オキシンドー	1,200倍 4,000倍 1,000倍	835g 250g 1L
			2 ユニックス	2,000倍		2 バリアード		
			3 バリアード	4,000倍		3 マイトコーネ※		
			4 マイトコーネ※	1,000倍				
			※マイトコーネはナミハダニ以外には効果が無い為、リンゴハダニの発生が見られる場合は、コロマイト(乳)1000倍を使用しましょう。					
500L / 10a	8月半ば	斑点落葉病、炭そ病、 黒星病、ハダニ類、 ハマキムシ類、 モモシクイガ	基準薬剤		1000ℓ 当たり 薬量	備考		
			1 アーデント	2,000倍		500ml 1.25kg	アリエッティCは物理性悪化の為、最後に調整しましょう。	
		2 アリエッティC	800倍					

農作業事故・熱中症には十分注意しましょう。

令和3年産りんごの予約は7/21(水)までとなっておりますので、申し込みの際は支店窓口までお願いいたします。